

海外日本人社会起業家の研究

A Study on Japanese Social Entrepreneur abroad

佐脇英志/都留文科大学

キーワード

多国籍企業、日本人社会起業家、イノベーション、社会課題、SDGs

研究目的(Objective)*

発表希望者は、6年間、海外の日本人起業家について調査研究を行ってきたが、その中で多くの起業家が社会課題の解決を目指していた。社会起業の流れは世界的なものであり、海外の日本人社会起業家が何人も生まれており、彼らについての研究が必要であり、今回はその概要を知るための探索的研究を行う。

リサーチ・クエスチョン(Research question)*

上記、研究目的から、

- 1) 海外日本人社会起業家は、存在するのか（社会起業家の定義）？
- 2) 日本人社会起業家の実態はどうなっているのか？
 - a) 従来の海外日本人起業家との違い
- 3) 日本人社会起業家は、どのように社会課題を見出して、イノベーションを起こし、社会起業を起こしているか
- 4) 多国籍企業の経営と多国籍企業研究にどのように役立つか

研究デザインと方法論(Research design/methodology)

ケーススタディを用いた探索的研究 (Exploratory Research) で、海外の社会起業家 4 人にインタビューを行った結果を、ケーススタディとして分析・研究を行う。また、それ以外の海外の日本人起業家の社会起業家的な動きにも着目する

発見事項(Findings)*

日本人社会起業家は、海外においてもすでに育っており、一定の成功を収めている。その陰には、日本では考えられないような苦勞を乗り越えて、自己実現をしている。日本では、社会起業はまだ十分に育っていないが、より深い社会課題に直面して、海外の日本人社会起業家は育っている。

理論的・経営管理上のインプリケーション(Theoretical/Practical implications)*

経営管理上のインプリケーション

昨今、SDGs、CSR、ESG 投資が叫ばれている中で、多国籍企業がなかなか社会貢献できず、出遅れている。さらに、ポーターの CSV の理論は理解できるが、実際にどのように利益を上げていくか分からない多国籍企業に対して、有効な実例を提供する。なかなかサステナブルにならない国際協力の分野に対しても、海外日本人起業家は有益な示唆を与える。

理論的インプリケーション

上記のように、実務で遅れていたこともあり、海外日本人社会起業家には、学術的な十分な蓄積が無い。近年、アジアの日本人起業家に関する研究は増えてきたが、日本人社会起業家の研究は、単独のケーススタディしか存在しない。本状況下、海外日本人社会起業家の意義は大きい。

限界(limitations)*

コロナ禍にあったので、Zoom と SNS を駆使したインタビューとなったのがリミテーションである。これに対しては、コロナ後にフォローアップインタビューを行う。

また、この Zoom インタビューという方法論の可能性をひろげた。

独自性と価値(Originality and Value)*

東日本震災後、日本でも社会起業が本格化し、それに伴い社会起業に関する研究も増えてきたが、海外の日本人社会起業家に関する研究はまだ始まったばかりである。一方、世界では、SDGs が世界的な動きとなり、企業の社会貢献の必要性に迫られている。海外社会起業家の研究は重要である。